

## 患者に適した剤形の提案

プレアボイドとは薬学的ケアから患者の不利益（副作用、相互作用、治療効果不十分など）を回避あるいは軽減した事例を意味します。今回は患者の服用環境に適した剤形を提案することで服薬コンプライアンスの向上に貢献できた事例のプレアボイドを紹介いたします。

### 患者背景

・習慣性扁桃炎に対して手術目的にて入院した患者。

Dさん



【処方】カロナール<sup>®</sup>錠 300 mg 1回1錠 1日3回 朝昼夕食後 7日分  
メイアクトMS<sup>®</sup>錠 100 mg 1回1錠 1日2回 朝夕食後 7日分



のどが痛いし、もともと錠剤は苦手なんよ。  
できることなら薬なんかは飲みたくないよな。

薬剤師



なるほど。粉薬だったら飲めますか？  
Dさんが今飲んでるものなら、錠剤から粉薬へ  
変えられると思います。



粉は大丈夫！粉薬にしてもらえたらうれしいな。



わかりました。医師に伝えてみますね。

医師



Dさんの内服薬の剤形についてですが、  
もともと錠剤が苦手ということもあって服薬コンプライアンス  
が低下しているように思います。  
ご本人様も散薬への変更を希望されていますが  
いかがでしょうか。



では変えてみましょうか。



Dさん、粉薬に変えてから薬の飲みにくさは変わりましたか？



飲めよるよ。やっぱり粉のほうが飲みやすいし、薬飲むのが  
楽になったよ！ありがとう。

患者の剤形に関する希望を聴取することで患者に適した剤形を提案でき、  
服薬コンプライアンスの向上に貢献できた。